

青少年のための科学の祭典2002倉敷大会

於：ライフパーク倉敷 科学センター 2002. 11. 9～10

参加者：大木（牧石小）高松（仁美小）倉橋（西大寺南小）

松本（国府小）津下（国府小）福井（伊島小）

今年も青少年のための科学の祭典が倉敷科学センターで開催されました。静観台グループは「試験管の中に降る雪」というタイトルで塩化アンモニウムの再結晶の実験を担当しました。じつは春頃に行われた出展希望調査の段階では「鉛を溶かしてペンダントを作ろう」というものづくりを計画していたのですが、材料費がずいぶんかかりそうだったことと鉛の蒸気が体に悪そうと言うこと、さらには火傷の危険があるということで実験を変更した経緯があります。塩化アンモニウム溶液入りの試験管は60本用意しました。これらは50℃前後で飽和状態になるよう調整しています。この試験管を魚釣り用の保冷ボックスに入れ60℃で保温しました。始めはハンディヒーターを使って保温していたのですが、途中でショートしたらしく、沸騰ポットでお湯を湧かして補充するよう切りかえました。また、1日目の夕方には電子温度計も壊れて、2日目はアルコール温度計を使いました。ハンディヒーターも電子温度計も福井個人の持ち物だったのでトホホでした。しかし、実験そのものは来場者の受けが良く「すごい！」とか「きれい！」とか驚きや感嘆の声が多く聞かれました。大きな音がするのではなく、きれいな光が輝くのではなく、おみやげがある訳でもないのですが「癒し系の実験」として独特の雰囲気をもつブースとなりました。

今年は交代で休憩をとりブースを留守にしないで欲しいと言われていたので高校生ボランティアをお願いしました。スーパーサイエンス・ハイスクールに指定されている岡山県立一宮高校から1年生の生徒が毎日2人ずつ応援に来てくれました。彼らにとっては初めての体験だったにもかかわらず、お客さんにとっても優しく声をかけ続けていたのが印象的でした。きっとクタクタになったろうと思います。

今回、静観台のメンバーの胸には「Seikandai」と書かれた黄色い缶バッジが光っていました。これは倉橋先生がおもちゃの缶バッジ製造器（バンダイ社製・2700円）を使って作ってきてくれたものです。以前、田辺先生が制作してくれたTシャツ同様、素敵な記念品になりました。

